

地方会議（愛知県豊田市）

1. 日時、場所

平成24年5月12日（土） 13時30分～15時30分
豊田商工会議所 特別会議室 403

2. 参加者

地元の若手・女性の中小企業経営者等 100名

3. 参加者の意見

（1）出された意見数（課題別）

全体意見数	36
資金調達	2
経営指導・経営支援	9
技術力・人材（技能承継等）	10
取引関係（下請取引・流通構造等）	0
販路開拓（海外展開等）	1
若手・青年層の活力発揮	4
女性層の活力発揮	4
「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）	4
その他	2

（2）主な意見

【経営指導・経営支援】

- ・ 中小企業経営者の中には、自分の企業の強みや問題解決策が分からないという人もいる。国が予算をつけて、中小企業診断士を派遣し、課題の抽出や改善策、施策の活用方法等を提示するとよいと思う。
- ・ 小規模企業は、補助金等の施策があっても「自分たちには使えないものだ」という認識でいる。支援機関がもっとかみ砕いて伝えることが必要。
- ・ 金融機関や商工会議所、税理士などの支援機関が中小企業の課題を中小企業基盤整備機構などにつなぐ等、連携して支援することが重要。
- ・ 今の政策メニューは充実しており、これ以上増やす必要はない。ただ、自分に合うものが何か分かりづらいなど、情報の届け方にやや問題がある。
- ・ 業態がサービス業だと、技術革新関係の補助金は使えない。業種が多様化している中での施策対応をお願いしたい。
- ・ 各都道府県の小規模対策が自由な裁量でできるようになった為、地域格差が

生まれた。どこの地域でも一定水準の体制をつくって欲しい。

【技術力・人材(技能承継等)】

- ・労働者派遣においては、使う側と使われる側の意識の違いが大きいことが、トラブルの原因。労働者ではなく労働力として扱われる現在の制度は、問題があるのではないか。

【販路開拓(海外展開等)】

- ・日本の大手企業が海外に出て行くと、競争相手になるのが、結局日本の企業となると聞く。日本で世界シェアをとっているものは国主導で適正価格の設定をしてほしい。

【若手・青年層の活力発揮】

- ・年齢層でジェネレーションギャップがあるので、いい仕事をするには人生の経験値に合わせて育成することが必要。
- ・小中学校の初等教育の時点から、単なる職業体験にとどまらず、ゲーム感覚で「経営」を疑似体験する仕組みを作してほしい。仕事をする・起業することについて理解が深まり、女性の社会参画や開業率も増加するのでは

【女性層の活力発揮】

- ・「女性の活用」＝「託児所を作ればよい」という発想は違う。男性が仕事の仕方を見直し協力することが、本当の男女共同参画ではないか。
- ・中小企業支援機関は女性の支援者が少ない。支援する側にも女性の視点を。
- ・一番大変なのは子供の友達の母親等からの目。学校教育のあり方、親世代の働き方について他省と連携して取り組んで欲しい。

【「地域」の中の中小・小規模企業(商店街等)】

- ・商店街において、高齢者雇用の一環で自治体により、駐輪をあまり厳しく取り締まられると、客足が遠のく。実情にあった対応を望む。
- ・商店街の空き店舗を住宅化するのは商店街の形成が難しくなるので対策を。
- ・商店街には従業員1～2名の小規模企業が多く、商店街としての全体事業を行う人手が不足。商店街の中での人材創出・教育や外部の商店街マネージャーやタウンマネージャーの招聘が必要。

【その他】

- ・社会保障費は、中小企業でも大企業と同じ労使折半であり、大きな負担。